

松あれこれ

森野かずみ



アカマツ



クロマツ



タギョウシヨウ

2017年、あけましておめでとうございませう。

正月前後になると、よく「松」を見かけます。その要因である門松は「松飾り」や「飾り松」などとも呼ばれ、新年の季語となっています。

門松は、年神様を家に迎え入れるための依り代（神様が依りつく対象物）ですが、古来、神様が宿ると考えられてきた常盤木の中でも、「祀（まつる）」に通じる樹木であることや、生命力、繁栄の象徴であることから、おめでたい樹として定着したようです。

正月の松として多く見かけるのは、畑で栽培されたクロマツ・別名「雄松」（オマツ）ですが、海岸の防風林では、自然のクロマツをよく見かけます。樹皮は黒褐色で網目状に裂け、葉は硬く濃い緑色、冬芽は灰白色。高木の全体を眺めると、枝葉の重量感を感じると思います。

仲間のアカマツ・別名「雌松」（メマツ）は、山地の乾いた場所や尾根に林を作り、コナラやミズナラとよく混生します。樹皮は根元付近では網目状に裂け、上部ほど樹皮がはがれて赤くなります。葉は柔らかく明るい緑色、冬芽は赤褐色という特徴があり、剪定の必要がない容姿端麗な姿です。

栽培品には、低木性で幹が根元から分枝し、扇形の樹形になるタギョウシヨウがあります。光が丘公園では、サービセンター敷地内で見ることが出来ます。

クロマツとアカマツの2種に、沖繩に分布するリュウキユウマツを加えた3種が、日本産種での2葉性の松です。2葉性とは針状の葉が2本ずつ束生する形態なので、確認しながら年最初の散歩をお続けください。

※ Kacee のホームページでカラー写真をご覧いただけます。